

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



日本LD学会会報 第64号

事務局：〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル3F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-3318
 URL. <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>



LD学会がめざすもの

—学習支援のための研究と教師の育成—

大阪府立大学

里見恵子

私は、昨年より特別支援教育士資格認定協会の副会長として、主にセミナーと実習を担当している。また、地域においては、専門家として堺市の学校巡回を行っている。巡回相談は、発達障害の子どもや教師の困難がどこにあるのかを理解するまたとない良い機会である。巡回の対象にあがってくるのは、広汎性発達障害の子どもかAD/HDまたはこの2つの合併の子どもで行動面に問題がある児童が中心で、まだまだ学習上の問題をもつ子どもの相談が少ないのが実情だ。しかし、クラスには、読みがスラスラできない子や、ノートを取ることに手間取る子、落ち着き無く学習への集中ができない子、明らかに知的な問題を抱えている子など学習上の援助が必要と思われる子が複数いるが、担任からは、問題があがらないことが多い。巡回相談では、対象の子どもへの助言と併せて、クラスにいる学習支援の必要な子どもについても意識的にコメントをすることにしていく。

特別支援教育に積極的な関西においても、特別支援教育が始まったといっても、学校や教師の目

がLD等の子どもへの学習支援に届いていないのが実情である。さらに特別支援教育士(S.E.N.S)の養成にかかわっていると、受講者の発達障害についての基礎知識はかなり高くなっていることを感じるが、読み書きの評価及び学習の評価、個別の指導計画の作成とそれに基づく具体的支援についてはまだまだ弱さがあると感じている。実習では、個別指導計画に基づき学習支援のできる教師養成を目指している。

LDに限らず、AD/HDや高機能広汎性発達障害の子どもも、読み書き障害、書字障害、読解の問題、算数障害が合併していることが多い。またAD/HDは、不注意からくる学習の問題を抱えている。

発達障害にかかわる学会が複数ある中で、日本LD学会は、LDを中心とする発達障害の子どもの学習支援を中心においた研究を積極的に推進し、現場の教師が対象の子どもの認知特性を考慮に入れた学習支援が実現できるようにすることがその役割を果たすことではないかと考えている。